

事業ID:2020562483

事業名:海と日本プロジェクトin埼玉県

団体名:海と日本プロジェクトin埼玉県 実行委員会

極秘

7.オリジナルイベント

7-(1) オリジナルイベント開催概要

| | |
|----------|---|
| イベントタイトル | 「海なし県・埼玉発！SAITAMA海・川調査団」 |
| 実施期間 | 2021年9月19日(日曜日)～20日(月曜日・祝) |
| 開催場所 | 株式会社テレビ埼玉、秋ヶ瀬取水堰、くらかけ清流の郷、ウエスタ川越など |
| 参加人数 | 11人(小学5年生7名、小学6年生4名) |
| 主催 | 海と日本プロジェクトin埼玉実行委員会 |
| 協力団体 | テレビ埼玉、埼玉新聞、埼玉県環境部水環境課、浦和うなぎを育てる階エイチ・アイ・エススポーツ事業営業所 |
| 開催概要 | <p>海と日本プロジェクトin埼玉県実行委員会は、海なし県、埼玉の小学生たちが川と海をつなぐ「うなぎ」をテーマに、荒川と東京湾について学ぶ体験型イベント「海なし県・埼玉発！SAITAMA海・川調査団」を9月19日と20日に日帰り2日間で開催しました。</p> <p>海がない内陸県の埼玉では、子どもたちへの海洋教育の機会や体験の場の乏しさが問題となっています。イベントを通じて幼少期に海に関わるきっかけを作ること、埼玉の子どもたちに海や、海に生息する生きものなどに関心を持ち、海につながる川の環境を守る大切さについて感じてもらうことがねらいです。</p> <p>※学習のまとめとして子どもたちが描いた「うなぎが暮らす理想の川と海」の絵とメッセージをポスターにして、推進パートナーの「共同組合浦和のうなぎを育てる会」に加入しているさいたま市内のうなぎ店11店舗で展示しました。</p> |



7-(2) イベント詳細

イベント詳細

海なし県・埼玉で育った子どもたちが、同じく埼玉の川で暮らすウナギを通して川と海の繋がりを理解し、イベントを通じて、海につながるこの川の環境を守る大切さを感じてもらうための2日間としました。

1日目. 川と海のつながり学習～うなぎが育つ『海』を調査～

講師：埼玉県環境科学国際センター 田中仁志さん・木持譲さん

1日目は、川と海のつながりを実感してもらうため、船に乗って埼玉県を流れる荒川をくだり東京湾を目指すクルージング体験を行いました。移動中の船の上では、風や波の様子、においといった環境の観察や海にまつわるクイズ大会などのアクティビティを実施。また、水質計器を使用して河口と海の2つの地点で溶存酸素量や電気伝導度などを調査しました。

2日目. 川と海のつながり学習～うなぎが暮らす『川』を調査～

講師：埼玉県環境科学国際センター 田中仁志さん・木持譲さん
埼玉県水環境課 田村和夫さん

2日目は、荒川の上流部で子どもたちが実際に川に入り、生息する魚や生きものを調査しました。ここでも1日目と同様に、水質を調べて海や河口との違いを確かめました。

1日目の海とは水温も透明度も違う川での生物調査を通じて、子どもたちは海では見ることができなかった昆虫や小さな魚やエビを採集し、1日目と2日目それぞれの地点で採水した水の汚れ具合などの違いから、そこに生息することができる生きものを分類分けするなどして、身近な「川」と、川からつながる「海」について学びました。

このあと会場を移動し、講師によるうなぎを取り巻く生息環境の変化や海洋汚染についてなどの座学学習を行いました。

なお、イベントでは、『長年埼玉の川で暮らし、最近の川と海の環境の変化に異変を感じている「うなじい」』というキャラクターを用いて、うなじいの疑問について、答えや原因を考えるワークシートを作成しました。

ワークシートには【久しぶりに海を泳いでいたらカラフルなものを見つけた】【エサのエビや小魚が減った気がする】などのうなじいの疑問を記載し、子どもたちは実習や講習を通じて、海に漂うマイクロプラスチックの観察や、環境の変化によって、うなぎの生態に関わる生き物（餌となる生き物や天敵など）が生息できる場所が少なくなっていることなどを理解していきます。

ワークシートの疑問の答えを学ぶとともに、うなじいたちが暮らしやすい川と海を守るために、魚たちが生息しやすい環境と海洋問題解決に向けて、ごみ捨てないなどの自分たちができることを仲間と一緒に考えてもらいました。

3. アウトプット

学習のまとめとして、子どもたちが描いた「うなぎが暮らす理想の川と海」の絵とメッセージをポスターにして、推進パートナーの「共同組合浦和のうなぎを育てる会」に加入しているさいたま市内のうなぎ店11店舗で展示しました。

7-(3) イベント写真

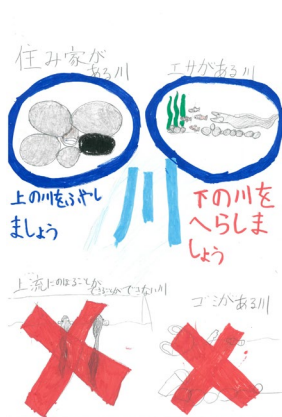
《1日目》



《2日目》



《アウトプット》



7-(4) その他

| | |
|-------------------|---|
| <p>その他の自主的な取組</p> | <p>・SNSでの施策 イベント開催中、Twitterにてリアルタイムでイベントの写真や動画を投稿し、積極的に発信し、保護者やフォロワーが確認できるようにした。そうすることで参加者の保護者をフォロワーとして取り込んだほか、保護者からは「日焼けをして帰ってきた息子が、自宅でうなぎや川の話をするようになった」「川での生き物採集がとても楽しそうで、今後、家族で川や海に行きたいと思った」など、さまざまなご意見をいただきました。</p> |
| <p>課題と対応案</p> | <p>コロナ禍の中で実施する2回目のイベントであったため、昨年同様に参加者への感染対策は徹底した。しかし、新型コロナウイルス濃厚接触者になってしまったり、イベント参加による感染への不安を感じたりして、イベント直前には8人がキャンセルとなり結果11人の参加となってしまった。 このようなコロナ禍でのイベント開催となったが、特にイベント内容としては、バスの中でのアクティビティや時間の使い方について、今後改良する必要があると考えた。 これまでは海や魚に関するクイズ等を実施していたが、バス内で大声を出すことが困難となってしまったため、今回は講師による講話をおこなったが、声を出せない分、子どもたちの反応をつかむのも難しく、また、子供たちも話に耳を傾けるだけの内容になってしまったため、充実した時間提供といった面で大きな課題となったと考えている。 来季はイベント開催2か月前から募集 及び万全な感染対策を強調し、より多くの人たちが安全な気持ちで参加できるよう心がけたい。</p> |
| <p>配布物</p> | <p>・募集チラシ200部</p>   |

7-(5) メディア露出状況

自社媒体

- ・イベント告知 2021年9月7日 1本
- ・イベント内容放映 2021年10月12～13日



他媒体

- ・埼玉新聞 2021年10月21日朝刊

